

西スマトラ・ワルヒ代表より

2014年12月12日、東京にて開催されるコトパンジャン支援の会 総会へむけて、ご挨拶

参加者の皆さん、おはようございます。
我々ワルヒより、敬意をこめて

絶えることのない恵みと慈愛を与えたもう偉大なる神におかれまして、本日コトパンジャン・ダム被害者住民を支援する会の総会が開催されることをお伝えできること、とても光栄に思っております。そして、今回、我々が、こういったご挨拶の機会を得ましたこと、感謝しております。

インドネシア、コトパンジャン・ダム建設による被害者住民の長い闘いは、1996年にダム建設が行われた時から始まっていました。312億円の日本のODAによって建設されたその事業は、12の村々を沈め、5000世帯もしくは2万3000人の住民を生活環境から追い出し、用意された家や、生計、上水道、電気、保健施設、道路といった生活の基盤となるファシリティや環境が適切であるとはとても言えない再定住地へ住民を移転させました。この建設が、インドネシアのコトパンジャン住民の生活を破壊した、重大な人権侵害であることは明らかです。

現在、彼らの被害と闘いは17年続き、しかし未だ彼らの正義は達成されていません。被害者住民の次の世代、新しい世帯は生活の源（収入源）も無く、被害はますます大きくなっています。またエコシステムが破壊され、教育や保健福祉の質も低く、さらには地域の文化の価値も失われ、インドネシア政府も日本政府もこういった事業の悪影響について手をつけてこなかったことで、ますます事業の影響は悪化しています。

この闘いはまだ終わっていません。そして被害者住民は、責任を取るべきすべての当事者を確定し、私たち西スマトラ・ワルヒとともに、住民の生活を再建していく上で、当事者彼らの義務を遂行させるため、日本の支援の会の皆さんのサポートをさらに必要としています。

私たちは将来、日本がこの問題を教訓とし、インドネシア共和国への援助や借款に対する厳しい条件や基準を作成するよう、望んでいます。そして、日本政府によって援助された開発すべてが、インドネシア国民を苦しめるものではなく、国民の福祉向上のためになされるということを確認してください。

最後に、私たち西スマトラ・ワルヒより、感謝の意を述べたいと思います。また、総会開催おめでとうございました。この集会で、権利を求める住民の闘いを支援するための戦略や、新しいコミットメントが生まれることを望んでいます。

2014年12月11日
パダンにて
インドネシア環境フォーラム
西スマトラ
ウスライニ（代表）